

EIDOS SACD COMPACT SCD Player



オーディオ時間をさらに高めるSACD Player

EIDOS SACDは、SACDやCDに加え、CD-R／CD-RW、DVD-R*／-RW*／+R*／+RW**に記録されたオーディオデータファイルの再生に対応しています。
コンピューターとUSB接続することで、USB D/Aコンバーターとして動作し、最大384kHzのPCMおよびDSD512の再生が可能です。
また、システム構成や用途に応じた柔軟な接続を実現するため、背面にはデジタルおよびアナログの各種出力を備え、プリアンプ、デジタル・サウンド・プロセッサー、インテグレートッド・アンプなど、多様なオーディオ機器との組み合わせに対応します。

GOLDMUNDは、信号の純度を維持するため、内部の信号経路を極力短く設計しています。
加えて、各回路間の干渉を抑制するために独自のシールド構造を採用し、特にオーディオ回路と電源部の相互作用を低減しています。
これらの設計は、同社の研究開発部門により創案・設計されたものであり、コンパクトな筐体においても高い透明性と精度を実現します。
立ち上がりの速さと収束の良さに優れた、歪みの少ない再生音をご体感ください。



【主な特徴】

- D&MのSACDメカニズムをベースに、振動を逃がすGOLDMUNDのメカニカル・アース・システムと、音の透明性を高めるためにローダー・メカニズムの剛性を高めるGOLDMUNDのダンパーを統合
- 進化したMechanical Grounding™ メカニカル・グラウンディングによる徹底的な内部振動排除構造
- 再生可能ディスク：SACDステレオ、CD、DVD-Audio(2ch)
- 384KH z までのPCMオーディオ・フォーマットとDSD512に対応(USB接続時)
- 専用ワイヤレスリモコン付属

【スペック】			
■対応メディア：	SACD/CD/CD-R/CD-RW/DVD-R*/-RW*/+R*/+RW* ※Audio data fileのみ対応	■周波数特性：	10Hz～20kHz、5Hz(-0.15dB)、24kHz(-0.45dB) 48kHz(-1.4dB)、96kHz(-4.3dB)
■アナログ出力端子：	RCA(アンバランス)×1、XLR(バランス)×1	■クロストーク：	120dB以下
■デジタル出力端子：	S/PDIF ×1、AES/EBU ×1、Toslink ×1 対応フォーマット：最大384kHz PCM	■高周波歪率：	0.0002%以下(20Hz～20kHz、1Vrms出力時)
■デジタル入力端子：	USB ×1 対応フォーマット：最大384kHz PCM、 最大DSD512(22.5792MHz)	■S/N：	128dB以上
■アナログ出力レベル：	・XLRバランス出力：4Vrms(Standard)／8Vrms(High) ・RCAアンバランス出力：2Vrms(Standard)／4Vrms(High)	■ダイナミックレンジ：	128dB以上
		■消費電力：	40W
		■本体寸法重量：	440mm x 183mm x 370mm(WxHxD)、20.6kg

MIMESIS Reference Stereo Preamplifier



ゴールドムンドの「今」を体現するリファレンス・プリアンプ

Goldmundの歴史は、オーディオ信号の変質を防いで、入力信号そのままの状態を維持しながら出力させるためのテクノロジーの積み重ねです。

Goldmundが培ってきたテクノロジーをさらにアップデートした「リファレンス・プリアンプ」が誕生しました。

クラスA出力ステージドライバーにより駆動されるこのプリアンプは、静粛で調和のとれた音景が広がるよう、全高調波歪み (THD) および相互変調歪み (IMD) を最低限におさえるために、信号経路を最短に設計しました。電源を再設計し、独立したアナログおよびデジタル回路を使用しています。各部分のプリアンプを駆動するためにカスタムオーディオグレードトランスを使用し、プリアンプの各側面(左 & 右)には、それぞれ専用の電源を配置しています。中心部は純粋なアナログのままでありながら、プリアンプ機能、フィルター、音量、および入出力を含む、プリアンプのインターフェースはデジタルでコントロールしています。

デジタルセクションを駆動するために追加の独立した電源を割り当てました。ヒートシンクは、電源からの熱を効果的に放散するために使用可能な表面積を最大限に活用しています。電源ユニットには、Goldmund独自のコンポーネントを搭載し、音響ドライバーに対して非常に安定した音響電源を提供します。

一枚のアルミニウムから精密に加工されたヒートシンクは、オーディオ回路の最適な冷却効率を実現しています。



【主な特徴】

- 超低ノイズのアクティブおよびパッシブ コンポーネント
- クラス A 出力段ドライバー
- 超低過渡相互変調歪み (TIM)
- 新設計の独立電源(電源別筐体)
- 個別のアナログ回路とデジタル回路を実装。左右それぞれに専用の電源
- 熱放散の改良
- ACラインが低下または遮断された場合、自動的にミュートに切り替わる
テープ・ループからの自動保護機能
- 専用ワイヤレスリモコン



付属専用DCケーブル

【スペック】

■ 入力端子:	RCA (アンバランス) × 7 XLR (バランス) × 3	■ 周波数特性:	±0dB (20Hz ~ 20kHz, 10Vrms) ±3dB (0.2Hz ~ 1.2MHz, 10Vrms)
■ 出力端子:	RCA (アンバランス) × 3, XLR (バランス) × 3	■ グループディレイ:	300ns以下 (DC ~ 200kHz)
■ テープアウト端子:	RCA (アンバランス) × 2	■ 高調波歪率:	0.002%以下 (20Hz ~ 20kHz, 1Vrms出力時)
■ 入力インピーダンス:	39kΩ	■ S/N比:	126dB以上 (0.01Hz ~ 10MHz) 136dB以上 (ASA A-weighted)
■ 最大入力レベル:	XLR (バランス): 9.6Vrms RCA (アンバランス): 4.8Vrms	■ 最大消費電力:	70 W
■ 出力インピーダンス:	50 Ω	■ 本体寸法重量:	440mm x 160mm x 406mm (W x H x D), 20 kg
■ 最大出力レベル:	XLR (バランス): 9.6Vrms RCA (アンバランス): 4.8Vrms	■ 電源部寸法重量:	440mm x 135mm x 390mm (W x H x D), 25 kg

TELOS 2800

Mono Power Amplifier



Goldmundの増幅技術を結集した高精度モノラル・パワーアンプ

Telos 2800は、Goldmund独自のTelos®増幅技術を核としたモノラル・パワーアンプです。
アナログ回路の高いリニアリティと広帯域設計を両立したClass A/B回路により、低歪で時間軸の整合性に優れた信号増幅を実現しています。
出力性能だけでなく、群遅延まで含めた精度を追求している点に設計アプローチの違いがあります。

高電流回路と低電流回路を分離した構成は内部干渉を抑え、微小信号の再現性と動作の安定性に寄与します。
さらにMechanical Grounding™を取り入れ、振動を制御することで、電気的要素と機械的要因の双方から音質を整えています。
出力インピーダンスの低減により低域の制動力も高められ、過度な膨らみのない自然な再生が可能です。

電源部には専用設計の大容量電源コンデンサを採用し、エネルギー供給能力と過渡応答を強化。
微小レベルから大出力まで一貫した特性を保ち、音量に左右されない再現性を確保しています。
電気・機械・時間軸を統合的に設計することで、高い再現性を支えています。



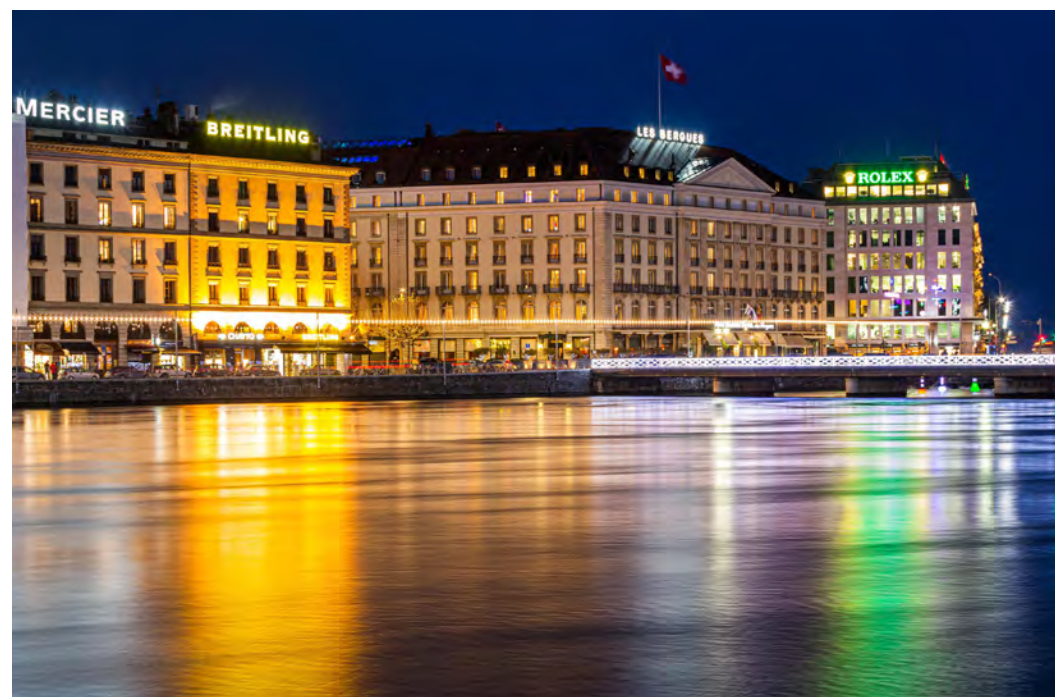
【主な特徴】

- 30Vrms出力時における0.05%以下のTHD+Nを実現した高精度増幅回路
- 35dBのゲイン、110dBのダイナミックレンジ、8Ω・1kHz時600のダンピングファクターによる高い制御性能
- 進化したMechanical Grounding™構造により、内部振動を徹底的に抑制し、信号純度を向上
- ギガヘルツ帯まで拡張した広帯域設計により、タイムディストーションを最小化し、優れた時間軸精度を実現
- Thermal Grounding™構造によりMOS-FETの温度変化を均一化し、安定した増幅特性と高い信号再現性を確保

【スペック】

- | | |
|---|---|
| ■アナログ入力端子：RCA(アンバランス)×1、XLR(バランス)×1 | ■出力ノイズレベル：3μV以下(20Hz～20kHz、RCA入力終端時) |
| ■デジタル入出力端子：RCAデジタル入力／出力端子×各1 | ■ゲイン：35dB |
| ■スピーカー端子：スピーカー出力端子(Goldmund Speaker 4Bタイプ)×1
バインディングポスト(赤／黒)×1 | ■ダイナミックレンジ：110dB(22kHz帯域、フラット特性、実効値測定) |
| ■定格出力：365W(IEC60065、8Ω負荷時、1/8出力) | ■ダンピングファクター：600 at 1kHz/8Ω |
| ■最大出力：450W RMS(8Ω負荷時、1% THD)
590W RMS(4Ω負荷時、1% THD) | ■電源部：3200VAトロイダルトランス
コンデンサ容量：109,600μF |
| ■高周波歪率：0.05%以下(20Hz～20kHz、30Vrms出力時) | ■寸法重量：440mm x 320mm x 460mm(WxHxD), 59kg |

About Goldmund



SWISS MAISON

Goldmundは、スイス・ジュネーブを拠点としています。ジュネーブは高級時計産業の中心地として知られ、Rolex、Patek Philippe、Audemars Piguetといった世界有数の名門ブランドが本拠を構えています。

この地に息づく時計製造の伝統は、Goldmundのものづくりにも色濃く反映されています。

卓越したクラフツマンシップ、細部にまで徹底して向けられた注意、そして技術的先進性と美しさを兼ね備えた製品を生み出す姿勢は、その象徴といえるものです。

また、ラグジュアリーとエレガンスの象徴としてのジュネーブの評価は、Goldmundの製品デザインにも表れています。洗練されたライン、高品位な素材、そして緻密な仕上げによって、その造形は特徴づけられています。

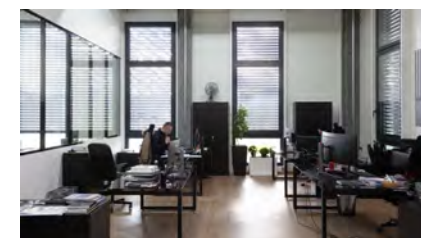
ATELIER

Goldmundがジュネーブに拠点を構えていることは、高品位なものづくりを追求する姿勢と、高付加価値を創出する確かな取り組みを示しています。

2023年には、新社屋「Les Cabinotiers」へと移転し、製造およびサービス体制のさらなる強化を実現しています。

新施設はジュネーブの主要な工業エリアに位置し、質の高さと美しさを兼ね備えた空間として設計されています。館内には、専用の組立ラインや先進的な試験設備を備えた生産環境に加え、カスタマーサービスセンターおよびショールームも併設されています。

「Les Cabinotiers」への移転は、持続的な成長に向けた取り組みの一環であり、高品質なオーディオ製品を継続的に生み出す体制の強化と、世界中のお客様の期待に応え続けていく姿勢を示しています。



Technology



Extreme Technology

Goldmundの革新的な製品は、精密に構築された技術アーキテクチャによって支えられています。

長年にわたり業界をリードする数々の独自技術を開発し、常に最高水準の音質の実現を目指してきました。

独自の増幅技術から高度なタイムコレクション・アルゴリズムに至るまで、すべての製品は一貫した思想のもと設計されています。

その根底にあるのは、まるでコンサートホールにいるかのような、極めてリアルな音楽体験の再現です。

その実現のために、Goldmundは常に技術の限界へ挑み続けてきました。

40年以上にわたり、世界屈指のエンジニアたちは最先端技術の開発に取り組むと同時に、外部の優れた先進技術も積極的に融合し、性能と利便性の両立を図っています。

システム全体から個々のコンポーネントに至るまで、すべての要素に高度な技術と豊富な知見が息づいています。



■技術アプローチ

Goldmundは、多くのメーカーが重視するTHD(歪率)や出力特性とは異なり、「位相」「時間軸歪(タイムディストーション)」「トランジェント特性(立ち上がり・立ち下がり)」を最も重要な要素と捉えています。

音の歪の本質は周波数特性だけではなく、時間軸における誤差や遅延に大きく起因するという考えに基づいています。これは、人間の聴覚が周波数の変化以上に時間軸のずれに対して敏感であるという認識によるものです。

Goldmund製品がこれまで高い評価を得てきた背景には、この時間軸の正確性を徹底的に追求し、「リアルな音」の再現を目指してきた姿勢があります。録音から再生に至るすべてのプロセスにおいて、どこで音質劣化が発生するのか、それをいかに抑制するかを長年にわたり研究してきました。

こうしたアプローチは、オーディオ機器の入口から出口、さらにはケーブルに至るまで自社で設計・製造を行う理由にもなっています。すべての要素は「音作り」ではなく、「より自然で、よりリアルな音」の再現を目的として設計されています。

■設計理念

- ・信号経路の最短化を徹底したシンプルな回路設計
- ・MHz帯域まで拡張された広帯域特性により、可聴帯域内での歪を排除
- ・不要なフィードバックに依存しない設計思想(フィードバックの最小化)
- ・メカニカル・グラウンディングによる電子部品の振動制御

これらの設計により、時間軸歪(タイムディストーション)を最小限に抑え、音楽信号に含まれる微細な情報——空気感や空間の気配までも忠実に再現します。

Goldmundは創業以来一貫して、この技術と理念を磨き続けてきました。音の純度を損なうことなく、自然で実在感のある音楽再生を実現するために、現在もお研究開発を続けています。



MECHANICAL GROUNDING™

1982年にGoldmundによって導入されたMechanical Grounding™構造技術は、物理法則に基づき、あらゆる構造体から振動を効率的に排出することを可能にします。これにより、スピーカーのみならず電子機器においても共振を低減。音の色付けの主要因となる機械的振動を抑制します。

その結果、特定の帯域が過度に強調されることなく、音楽本来の自然な響きを忠実に再現します。



TELOS® AMPLIFIER

一般に、アンプは高出力であるほどスピーカーの制御力に優れるとされています。スピーカー制御は主に二つの側面から成り立ちます。ひとつは、歪みのない高品位な音を再生するために十分な電力を供給すること。もうひとつは、ドライバーの不要な動作を抑制し、不要音の発生を防ぐことです。とりわけ低域においては、ドライバーの往復運動が大きくなるため、信号の純度を損なう不要音が発生しやすくなります。Telos®増幅技術は、すべての回路段におけるリニアリティを向上させることで、高調波歪およびインターモジュレーション歪を大幅に低減します。さらに、広帯域設計とすることで、可聴帯域内におけるグループディレイ歪を最小限に抑えています。

入力回路には、Goldmundユニバーサル・プリアンプとの最適な結合を実現するため、最新世代のAlizéデジタル／アナログ変換回路を採用。入力段と出力段を分離することで、高電流回路と低電流回路間のフィードバックを防ぎ、Mechanical Grounding™の効果もさらに高めています。

最新のTelos回路がもたらす最も重要な音質的進化のひとつが「ドライバーコントロール」です。アンプの出力インピーダンスを極限まで低減することで、微小信号の再現性を飛躍的に高めると同時に、大口径ウーファースの過渡的な振幅の過大化を抑制し、膨らみのない引き締まった低域再生を実現します。

Telos®は、音量の大小にかかわらず、歪みのない比類なき純度と透明度でオーディオ信号を増幅します。



THEMIS

Goldmundの革新的なThemisテクノロジーは、今後の製品群に搭載される中核技術として、オーディオ再生の新たな次元を切り拓きます。Themisは左右各チャンネルに専用のオーディオカードを割り当てる構成を採用し、完全に独立した信号処理を実現。この徹底した分離により、ノイズやクロストークの発生を最小限に抑え、音声信号の純度を極限まで維持します。さらにThemisには、最適化されたアナログ回路を備えた次世代DACを搭載。電気信号に含まれる不要成分である全高調波歪(THD)を大幅に低減し、歪みをほぼ排した極めてリニアな信号伝送を可能にします。各チャンネルは独立したDACとボリュームコントロールを備え、信号経路の純度を最大限に高めるとともに、広大なダイナミックレンジを確保。動作中のノイズを排除することで、微小レベルから大音量まで、あらゆる音量域において透明性を損なうことなく再現します。Themisカードは、電磁放射を遮断する独自のロック機構付きメカニカルシールドを採用。さらに新設計の高精度ボリュームコントローラーを搭載し、オーディオ体験を一層高い次元へと引き上げます。モジュラー構造を採用したThemisは、各機能が独立して動作するため、優れたメンテナンス性を実現。システム全体の信頼性とパフォーマンスの向上にも寄与します。

GoldmundのThemisテクノロジーは、精緻に設計された先進コンポーネントによって、比類なき透明度、ダイナミックレンジ、そして信号純度を提供するとともに、同社の技術力と革新性を体現する新たなプリアンプリフィケーションのアプローチを提示します。

History



The Art of Sound

1978年、フランスにて若きエンジニア2人によりGoldmundは創設されました。

ブランド名は、ドイツ語で「黄金の口」を意味する“Goldmund”に由来しています。

彼らは当時としては先進的であったリニアトラッキング方式のトーンアームを開発し、その独創的な設計と高い技術力は、

後にミシェル・ルヴェルションの評価を受け、ブランドの発展へとつながります。

このトーンアームは「T3」として製品化され、さらにそれを搭載したアナログプレーヤー「Studio」および「Reference」が登場しました。

中でも大型モデル「Reference」には、後にGoldmundの設計思想の中核となる「メカニカル・グラウンディング」が採用されています。

これは、不要振動を単に吸収するのではなく、高剛性構造によって振動の経路を明確化し、ピンポイントでグラウンドへと逃がすという考え方です。

このアプローチは、現在広く普及しているスパイク支持構造の原型のひとつとなりました。

Goldmundは創業以来、最高水準のオーディオ機器を追求してきました。

リアルな音の体験へと導く、高品位なオーディオエレクトロニクスを提供しています。

「Goldmund」という名称は、ヘルマン・ヘッセの文学作品

『ナルチスとゴルトムント』に由来しています。

物語は、感性と理性という相反する本質を持つ二人の人物が、

それぞれの道を通じて真理を探究する姿を描いています。

Goldmundは、この象徴的な物語に着想を得てその名を冠し、

音の正確性と透明性を追求することで、

真理に迫るオーディオの実現を目指しています。

高剛性構造により振動を制御する設計思想
「メカニカル・グラウンディング」を確立



1980年代

エレクトロニクス分野へ本格参入



1990年代

デジタル制御および高精度処理技術の
進化により、プリアンプおよびパワーアンプの
高性能化を推進



2010年代

新世代プリアンプ／パワーアンプ
を発表



2020年代

Goldmundの新たな中核技術
「Themis」を発表



1978年



フランスにてGoldmundを
創設。リニアトラッキング方
26式トーンアーム「T3」を
発表

1980年



ミシェル・ルヴェルションが
Goldmundを買収し、拠点を
スイス・ジュネーブへ移転

1987年



初のGoldmundエレクトロ
ニクスとして、プリアンプ
「Mimesis 2」とパワーアンプ
「Mimesis 3」を発表

1989年



2作目のパワーアンプ
「Mimesis 9」を発表

1990年



Alizé DACを採用した
「Mimesis 10」および
CDトランスポート
「Mimesis 36」を発表し、デ
ジタル分野を開拓

2002年



初のデジタルプロセッサー
「Mimesis 24」を発表

2009年



5000ワット・モノラルパワー
アンプ「Telos 5000」を発表

2017年



「Next Genアンプシリーズ」
を発表

2023 ～



「Eidos SACD」を発表



新世代アンプラインを拡充
「Mimesis Signature」、
「Mimesis Excellence」、
「Telos 690」、「Telos 670」